One for Children, All for Children

久我山青光学園

学園便り　10月号
校長　田島　忍
令和８年９月30日発行

宿泊学習が教えてくれること

副校長　　堀越　貴美子

今年度も各学部で宿泊学習が行われています。先日は知的障害教育部門の5年生の移動教室に同行しましたが、移動教室に参加した子供たちの様子を見ながら、改めて「初めて家族と離れて泊まること」の意義について考えました。宿泊学習では、普段の学校生活では経験できない活動に取り組みます。しかし、私が特に意義深いと感じるのは、家族と離れ、友達や教員と一緒に一晩を過ごす経験そのものです。初めて宿泊する子供たちの中には、食事がいつもどおりに進まなかったり、夜なかなか眠れなかったりすることもあります。それでも友達と過ごしたり、教員に支えられたりしながら、一つ一つの場面を乗り越えていきます。

宿泊学習を終えた後の子供たちの表情は実に晴れやかです。「楽しかった」「頑張った」という言葉はもちろん、中には多くを語らなくても、どこか自信に満ちた様子が感じられます。家族と離れて過ごした時間の中で、「自分にもできた」という実感を得ることが、自立に向かう大切な一歩になると感じました。私たち教職員にとっても、子供たちの成長を間近で感じることのできる貴重な機会となっています。また、宿泊学習は保護者の皆様の御理解と御協力なしには成り立ちません。事前の荷物準備や健康管理、服薬の準備など、様々な面で支えていただいています。子供たちと同じように、保護者の方々も心配しながら宿泊行事を見守ってくださっていることと思います。改めて、保護者の皆様の御協力に感謝申し上げます。

今年度の宿泊行事はまだ続きます。今後も安全・安心を第一に、御家庭と学校が力を合わせながら、子供たち一人一人にとって実り多い学びの機会となるよう取り組んでまいります。宿泊学習で得られる「できた」という経験が、子供たちの大きな自信となり、未来につながる力へと育っていくことを願っています。

視覚障害教育部門　夏休み中の部活交流会

教諭　羽村　文

７月 22 日（水）、世田谷区立烏山中学校から有志生徒が来校し、本校部活動所属生徒と「フロアバレーボール」を通してスポーツ交流を実施しました。

「フロアバレーボール」はどのような見え方の人も一緒に楽しめるように考案されている球技です。前衛選手はアイマスク等を着用し、何も見えない状態でプレイします。

まずはサーブ、レシーブ、ブロックなどの練習を行った後、試合形式でのゲームに取り組みました。最初はぎこちなかったチームですが、お互いの位置やボールの行方を大きな声で伝え合う中で、ラリーも気持ちもつながっていく様子がうかがえました。サーブの際は、コート内の選手のために静寂を保ち、好プレイが巻き起こった際は歓声で讃えるなど、互いを思いやる姿勢が自然と現れたゲームでした。

「皆でやれて楽しかった」「位置や向きを声で教えてもらえると安心した」と両校生徒とも笑顔で交流を終えることができました。

知的障害教育部門　小学部５年　移動教室

教諭　盛田　由夏

９月９日（水）～10 日（木）、小学部５年生は初めての移動教室となる１泊２日の宿泊学習を行いました。連日雨模様の天候でしたが、子供たちが活動する時間になると雨が止み、予定していた活動に取り組むことができました。

出発前は、楽しみな気持ちと緊張した様子が入り混じっていた子供たち。しかし、友達と一緒に過ごす中で次第に緊張もほぐれ、笑顔で楽しく活動する姿が見られました。

子供たちは「お風呂が楽しかった」「絞り染めが上手にできた」など、楽しかった思い出を嬉しそうに話してくれました。

友達と協力したり、自分のことを自分で行ったり、普段とは違う環境で様々な経験をしたことで、一人一人の成長を感じることができました。今回の「できた！」という喜びが、子供たちの自信につながっていくことを願っています。